

簡易郵便局を訪ねて 87

地域のお年寄りに親しまれて

上芦別なまこ山簡易郵便局（北海道芦別市）



局長
川崎 洋子

地域で頑張っている簡易郵便局を紹介します。



同じ町内にあった上芦別草笛簡易郵便局が閉鎖した半年後の二〇二〇年五月に自宅を改装して開局、スポーツ合宿誘致の拠点施設となる体育館などがある近くの「なまこ山総合運動公園」から局名をとった。「郵便局がなくなつて不便だ、と言う地域の方々に後押しされ、以前金融機関に勤めていたことがあったので、仕事としてもありかな、と考えて決断しました」



上芦別なまこ山簡易郵便局外観



窓口ロビー

と振り返る。

三十年以上続いた草笛簡易局の名須川久二子局長が体調を崩して閉局に至ったが、その後健康を取り戻したので今では毎週月曜日の午前中だけ補助者としてお手伝いに来てもらっている。

開局に当たっては同じ市内にある北海道簡易郵便局連合会長の小野寺伸王・芦別溪水簡易郵便局長にもアドバイスを受け、ずいぶん

助けられたそう。

「勉強して覚えなければならぬ事がたくさんあつて今でも苦労しています。特に貯金と保険についてはお金にかかわる事であり、かつての経験も役に立たないので大変です。でも毎日が楽しい」と奮闘ぶりを説明する。

昨年末の年賀はがき販売は、前年に比べ一・五倍となり「知名度が上がってきているのでは、と喜んでいきます」と笑顔を見せる。赤肉、青肉メロンの産地だけに収穫期には、本州送りのゆうパック利用も多いとか。

市街地から五〇余り離れた地域にあり、利用層は高齢者が多いと言う。「年金を下ろしに来たり、税金や公共料金を納めるなどの際顔を出しては世間話をしていくんです。話し相手は苦にならないからみなさん結構話し込んでいきます。だから一日があつと言う間に過ぎます。時間が足りないくらいに感じる日も多い」とお客さまとの交流も楽しんでいるようだ。

炭鉱全盛期には七万人超えの人口も、今では一万二千人台、それでも毎年七月に行われる「星の降る里・芦別健夏まつり」は往時のにぎわいをしのばせる。本家・博多祇園山笠振興会お墨付きの祭り



では、山笠と呼ぶ重さ一トン近い山車（だし）を三つの流れ（チーム）が担いで走る「追い山」が見どころだ。川崎局長も「大きな博多人形を飾った山車、掛け声、担ぎ手の熱気、スピード感、迫力いっぱい興奮すること請け合い」とPRする。
（インタビュアー：北海道地方本部 堀井英喜）
住所 〒071-0711 北海道芦別市上芦別町七九一七



勇壮な星の降る里・芦別健夏まつり